

鍔葺屋根の研究

まずは増上寺大殿と西新井大師大本堂(東京都足立区)の鍔葺屋根を比べてみよう。

A
増上寺



B
西新井大師
昭和46年05月竣工





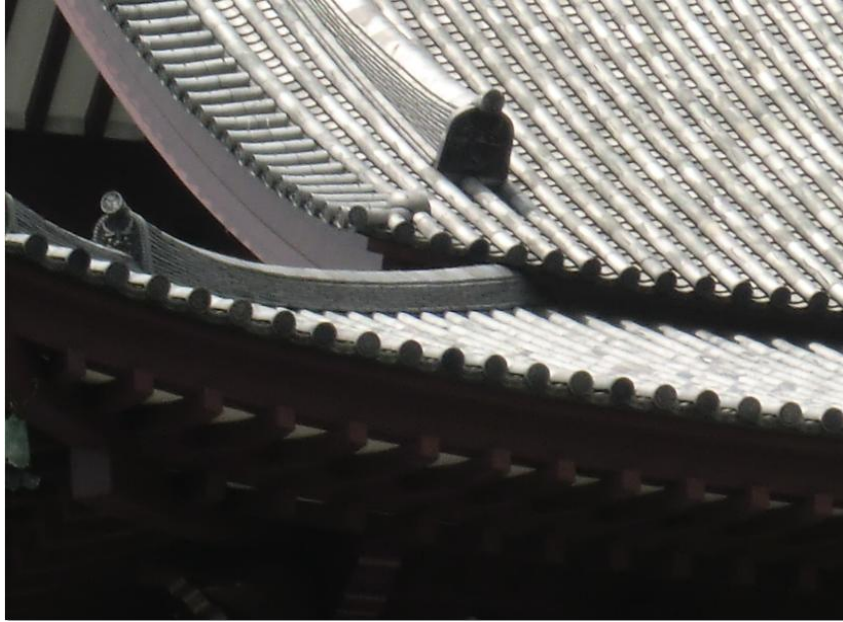














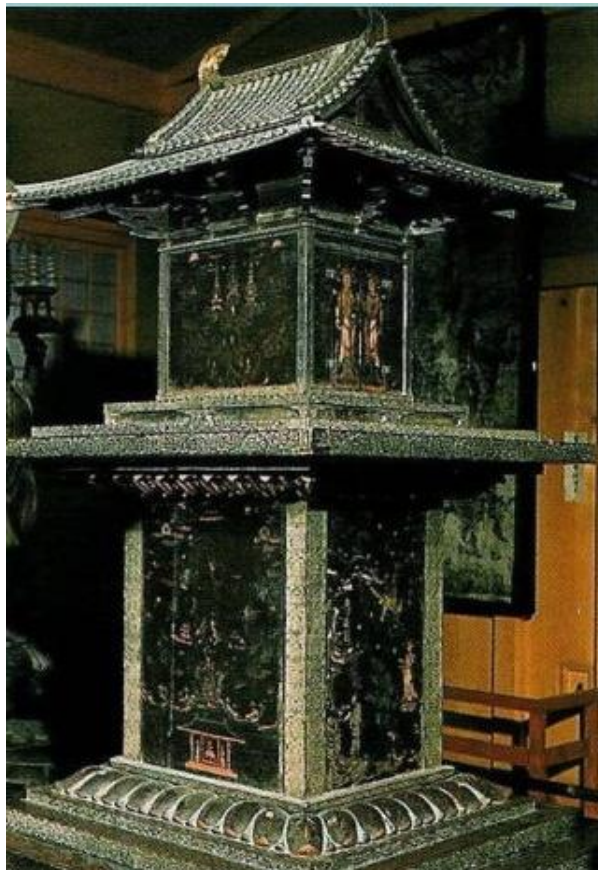


以上から相違点をあげると

- ① 鑿葺屋根の軒反りにおいてもAは真反りのゆるやかな反りであるが、Bは中央がほぼ水平になっていて端部になって反りをもつ
- ② Aは下層の屋根との段差が少なく上下の屋根が一体に見えるように工夫されているが、Bは上下の屋根の重なり部分で口が大きく開いてしまっていて上下の屋根が別物との感があり、特に端部においてそれは極端になっているようだ
- ③ Aは鑿葺屋根部分が屹立性(垂直度)が大きく、また下層の屋根は屋垂みが緩やかに抑えられ、その対比によって大殿の崇高性が演出されているが、Bは鑿葺屋根部分の垂直度が小さく、加えて下層の屋根との勾配にそれほど差がなく造形上のインパクトが弱いようだ

上記のような点から、Bの鑿葺屋根はその利点が十分に発揮されているのか疑問と思われる。また端部での納まり等、しっくりいっていないようにも感じられる。

鍔葺屋根の原点



レプリカですが鑿葺屋根のアップ



以上、インターネットより

さて、大岡實建築研究所の鍩葺屋根をもつ作品を年代順に並べると下記のようになる。

①	昭和35年06月	1960年	医王寺	本堂	東京都世田谷区
②	昭和42年08月	1967年	眞光寺	本堂	神奈川県横浜市
③	昭和44年01月	1969年	法蔵院	本堂	神奈川県横須賀市
④	昭和44年03月	1969年	聖光寺	本堂	長野県蓼科
⑤	昭和46年05月	1971年	増上寺	大殿	東京都港区
⑥	昭和51年	1976年	長安寺	本堂	神奈川県横須賀市

「大岡作品」

①



西新井大師大本堂



①



①







①





②



②



②



③



③



③



④



④



⑥



⑥



⑥



⑥



⑥



⑥



こうしてみると、大岡實建築研究所の「鑿葺屋根作品」においても以前から指摘のあるように初期の医王寺や眞光寺では試行錯誤の状態であったと思われるような部分が見られる。しかしその後の法蔵院では完成形に近い形になっているように思われる。

以上のことより、鑿葺屋根をもつ造形は大岡實建築研究所の優れた社寺建築デザインの大きな特徴となっていると考えられる。